

青井記念館美術館

はぐくみ会だより

第 20 号

平成17年11月 1 日



所蔵作品紹介

(19)

「円形額 鷹」

三村 卯右エ門 作

いあいこ

校長 濱田 宏

青井記念館美術館の周りに色とりどりのコスモスの花が小さく揺れて、深まり行く秋の風情を漂わせております。当美術館は、青井忠治殿の高邁なる理想と暖かい母校愛により昭和三十八年青井記念館のご寄贈に端を発して、県当局のご理解で平成六年九月、青井記念館美術館が誕生しました。学校が所蔵する貴重な美術品の保存、それらの教育的活用を図り、さらに地域社会の文化的向上に貢献することを目的に、全国的にも異彩を放つ高校附属美術館ができあがりました。爾来十年、着実な発展を遂げており、会報「はぐくみ会だより」も二十号の発行となりました。はぐくみ会員の人的ネットワークが美術館の多彩な企画を支え、力強い後押しをいただいておりますことに、厚くお礼申し上げます。

平成十七年度美術館運営年間計画を挙げると、所蔵品展示の常設展（Ⅰ～Ⅳ）を中心に、同窓生ギャラリー（第三十五回～第三十八回）、間隙を縫って、高岡市民美術館、富山県立近代美術館合同展、文化都合同展、第十二回青井中美展、尚美展関連作品展、卒業課題展等で年間フル稼働の状況です。折々に生徒を集めて、作者又は職員による作品説明

会を催し、本物に触れさせる生きた学習の場として大切にしています。

また、開館以来特筆されるのは、県内中学生を対象とした美術工芸作品コンクール（青井中美展）です。若者の創作意欲を促し、絵画・工芸に親しむ、あるいは郷土の芸術科を理解する機会に努めています。また

欠かせないのは、平成十五年度に榎丸井の青井忠三郎殿より収蔵作品のデジタル映像化装置一式を寄贈していただき、全点約750作品を入力して、プラズマ3Dディスプレイで瞬時に検索、鑑賞が可能となりました。

本年、新生校舎の第一弾となる管理・教室等の改築が起工され、明後年の春に平成の新たな顔となる校舎が竣工されます。この歴史的・文化的基盤の地を生かしたところで工業及び芸術教育が一層の飛躍を遂げ、高岡の伝統工芸を担う人々の育成を課題として、建学の精神「尚美くより高きを求めて、さらなる美を求め」を伝承しながら、个性的で特色ある工芸作品の創出に日夜錬磨するものと確信しています。本美術館の存在がクラフツマンの集いの場、発表の場としてますます高まることを願っています。

常設展Ⅰ期・Ⅱ期開催される

5月14日(日)～7月24日(日)

五月十四日(日)から七月二十四日(日)まで常設展Ⅰ期「本校収蔵品の展示(日本画と工芸)」が開催されました。

「極楽坂雪景」村 閑歩、「雪之松」加藤丑之助、「朝顔」昇 外義など日本画十三点、「大寺勇吉電鍍肖像」畑 正吉、「銀線象嵌鍍銅 六方花生」金森栄一、「双耳細頸鍍銅花瓶 虚像」竹田圭治など工芸三十六点が展示されました。

又、九月十五日(日)から十一月六日(日)まで常設展Ⅱ期が開催されています。

「歴代校長肖像画」佐藤八郎、「ピアノの前」高瀬由雄など油絵十四点、漆絵額魚紋(サンマ) 山崎寛太郎、乾漆花器「立冬の頃」新敷孝弘など漆工十七点が展示されています。

文化部合同展

今年で三十五回目を迎えて開催される美術部・クラフト部・写真部・陶芸部・デザイン研究部・茶道部、開会式には放送部・吹奏楽部が参加して日頃の活動の成果を発表しました。

会期の一、茶道部のお茶席で一服のお抹茶に心和む一時でした。

7月9日(土)～7月24日(日)





佐竹美保原画展



松木英子自選展

人気挿し絵作家として活躍の佐竹美保さん（昭和五十年デザイン科卒）の挿し絵と絵本の原画展が五月二十一日から六月十二日まで開催されました。佐竹さんによる解説会も開かれ本校生徒や来館の方々には多彩な挿し絵の世界に浸りました。

又、松木英子さん（昭和三十一年年図案絵画科卒）の自選展が六月十八日から二十五日まで開催されました。インドで生活する女性をテーマにした作品が多く、連日多くの方々が祝福と共に来館されました。

九月十五日から十月六日まで三人展が開催されました。昭和二十一年卒で金工家の麻生三郎、洋画家の代谷松男、日本画家の道吉勝重が出品。緻密にデザインされた金工、卵とトランプのシルクスクリーン、雄大な立山の作品に本校生徒、来場者の目を楽しませていました。



三人展

佐竹美保原画展 — 挿し絵と絵本 —

松木英子自選展

三人展 — 麻生三郎・代谷松男・道吉勝重 —

が開催される

同窓生ギャラリー

県立近代美術館 所蔵作品展

「点と線の詩情」

8月4日(水)～9月4日(日)

青井記念美術館では、県立近代美術館の協力により、平成九年度から毎年両館の収蔵品を併せて展示する企画展を開催しています。今回は「点と線の詩情」をテーマに、日本画、洋画、彫刻、ポスター、椅子など多様なジャンルの作品を紹介しました。



当美術館からは、芸術院会員の郷倉千靱「生」、山崎覚太郎「紅梅」、初代校長納富介次郎「双鯛彫刻漆器大盆」、近代美術館からは、永井一正、粟津 潔、福田繁雄のポスター、片岡珠子「立山」などが展示され豊かな詩情を楽しむことができました。夏休みと重なり大勢の学生や親子連れが鑑賞に訪れました。又、期間中には館長や学芸員の解説会もありました。



所蔵作品紹介

(19)

表紙

「円形額 鷹 錆絵」

三村 卯右工門 作

円形で、寸法は径五十一cmの漆工作品で錆漆で表現されています。錆絵とは、生漆に砥の粉を混ぜた錆漆に適当に水を加えながら、筆画によって高肉に肉上げしながら描く技法である。この作品は他の錆絵と違って、より日本的な筆致で鷹の羽の一枚一枚などの細部が丁寧に描かれている、作者は元本校職員。

平成17年度 寄贈作品紹介

関 長造 作 (昭和六年金属工芸科卒)
洋画「裸婦デッサン」額装



中島秋圃(次郎) 作
(創校時より昭和初期までの旧職員)
日本画「金鶏」額装

以上二点 上田由治氏(昭和四十年デザイン科卒・南砺市在住) より寄贈

村 閑歩(金平) 作 (大正十二年図案科卒)
陶芸「二上山絵付け」飾り皿
徳田 三郎氏(高岡市在住) より寄贈

松木 英子 作 (昭和三十一年図案絵画科卒)
油絵「安息の一時」額装

松木 英子氏(東京在住) より寄贈

松村秀太郎 作 (明治三十八年木工科卒)
彫刻「大黒天」

米田富實雄氏(八王子市在住) より寄贈

加藤丑之助 作

(昭和三年より昭和三十二年までの旧職員)

日本画「雪之松」軸装

谷口 美治氏(旧職員滋賀県在住) より寄贈

催事案内

常設展Ⅲ期

絵画 彫刻・工芸・デザイン
12月22日(木)〜
2月19日(日)

常設展Ⅳ期

掛け軸・彫塑・工芸
3月14日(火)〜
4月2日(日)

第十二回青井中美展

県内中学生を対象とした
公募による美術展覧会
11月24日(木)〜
12月7日(木)

卒業課題展

2月25日(土)〜
3月3日(金)

同窓生ギャラリ―

第一期一会展二〇〇六
1月22日(日)〜
2月12日(日)

第三十八回

日本画「岩城大介展」
3月14日(火)〜
4月2日(日)

はぐくみ会会員募集のおしらせ

はぐくみ会では会員を募集しています。
申し込みは日時から一年間会員となります。
主な活動

- 1 青井記念館美術館への協力・支援
- 2 中学生美術展(青井中美展)への支援

特典

- 1 企画展等の案内
- 2 はぐくみ会だよりの配布

年会費

一般会員(個人) 二,〇〇〇円
特別会員(企業、団体等) 一〇,〇〇〇円

お問い合わせ・申し込み先
青井記念館美術館はぐくみ会事務局

編集後記

今年度は同窓生ギャラリ―を五回企画しています。すでに実施されたギャラリ―では、多くの人が作品鑑賞に訪れ作家さんとの話し合いも活発でした。

夏休み中に開催された富山県立近代美術館との合同所蔵作品展に中高生が来館し、作品鑑賞し、感想・表現方法・材料についての質問があり有意義でした。

四月より丸山先生が美術館に、デザイン科での勤務なされました長年の経験を生かして新しい感覚で勤められています。(竹田記)

編集発行

富山県立高岡工芸高等学校
青井記念館美術館はぐくみ会

住所 933-8518 高岡市中川一―120
TEL (0766)21-1630
FAX (0766)21-1631

*青井記念館のホームページを開設しております。
<http://www.tym.ed.jp/sc350/aoi/index.htm>